



『連合アクション！街頭行動』の取り組み



2025 春季生活闘争、価格転嫁の推進、過労死防止啓発に取り組む

連合福島は、12月3日(火)の17:30より福島駅東口エスタビル前において「連合アクション街頭行動」を実施した。

年末を控え、長引く原材料・物価高騰の影響により混乱する経済状況に伴い、悪化する労働環境を踏まえ、2025 春季生活闘争、価格転嫁の推進、そして11月の過労死防止啓発月間を踏まえての取り組みとなった。

特に長時間労働是正をアピールしながら、翌週 9 日からの「なんでも労働相談ダイヤル」の周知と浸透に努めた。今回も、連合福島役員、県北地域連合役員の協力も得て取り組んだ。

冒頭、連合福島を代表し澤田精一会長は、『連合は、来年の賃上げに向けて「みんなでつくろう！賃上げがあたりまえの社会」をメインスローガンに、2025 春季生活闘争の取り組みをスタートさせた。

2024春闘は、「人への投資」による「未来づくり春闘」を掲げて、月例賃金の改善、デフレマインドを払しょくし、ステージの転換の正念場として取り組んだ。最終的には、福島でも 33 年ぶりに 5%を超え、高い水準での賃金改善となった。正に、ステージ転換に向けた大きな一歩となった。

しかし、物価上昇に賃金が追いついていないこと、福島においても大企業と中小企業の規模間格差が拡大したこと、更に一部の業界では、労務費を含む価格転嫁が進んでいない現実がある。

2025春闘は、すべての働く人の持続的な生活向上をはかり、新たなステージをわが国に定着させることをめざし、全力で賃上げに取り組み、社会全体への波及をめざすとしている。

具体的には、すべての働く人の生活を持続的に向上させるマクロの観点と、各産業の「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み強化を促す観点から、全体の賃上げの目安は、賃上げ分と定昇相当分を含め 5%以上の実現をめざすこととし、中小労組は、更に格差是正分 1%以上を加えた 6%以上を目安としている。そして、

持続的な賃上げと格差是正に向けて、適切な価格転嫁、適正取引の取り組みを強化するとしている。

連合福島は 私たち組織労働者の取り組みが、福島の未来をつくることをお互いにしっかりと意識し、全ての働く者の生活が持続的に向上し、新たなステージを福島に定着させるための重大な役割を担い、2025 春闘勝利に向け運動をけん引していく決意を申し上げる」と挨拶した。

最後に、連合福島・澤村英行副会長より過労死等防止に関する連合福島の取り組みアピールをし、街頭行動を打ち上げた。街頭では、チラシ付ティッシュを配るなど通行される市民に訴えた。



挨拶する澤田精一連合福島会長



取り組みアピールをする澤村副会



チラシ付きティッシュを配布